

大鹿村中央構造線博物館たより 74号



月・火曜日休館

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

「大鹿村ジオツアー」参加者募集中！

- 期日：8月22日（土）～8月23日（日）1泊2日（宿泊：赤石荘）
※大鹿村在住の方は、ご自宅から通って参加することも可能です。
- 参加費：1人¥1000（博物館入館料と保険料含む、宿泊費と2日目の昼食代は別）
- 定員：20名（定員に達し次第、申し込みを締め切ります）
- 集合：8月22日（土）15:20 大河原バス停
- 申込先：大鹿村中央構造線博物館 電話 0265-39-2205 申し込み締切：8月2日（日）
- 日程（内容、時間等が変更になる場合がございます）

1日目 8月22日（土）

時間	場所・内容
15:20	大河原バス停 集合
15:40	安康露頭
17:00	中央構造線博物館
18:10	宿泊先(赤石荘) 到着

2日目 8月23日（日）

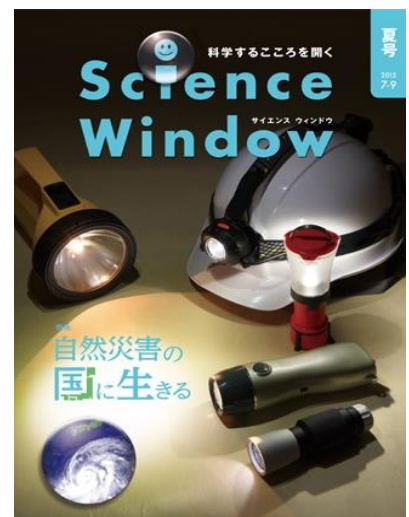
時間	場所・内容
8:00	宿泊先(赤石荘) 出発
9:00	夕立神展望台
10:50	福德寺
11:40	大西公園 昼食
12:50	塩の里・黒部鉄次郎の坑道跡
13:50	中央構造線博物館
15:00	博物館にて解散

「Science Window 2015年夏号（第9巻2号）」に記事を執筆

「Science Window」は、子ども達への科学教育が豊かになることを目的に、科学技術振興機構から発行されている科学教育誌です。学校や博物館等に無料で配布され、個人で購入することも可能です。

今回、連載記事「空からジオ」にて南アルプスジオパークが掲載されることとなり、当館学芸員の河本が記事を書きました。この記事では空から見た写真（衛星画像）を用いてジオパークを紹介しています。今号の衛星画像では、糸魚川-静岡構造線や中央構造線、伊那谷活断層帯といった断層を真上から見るすることができます。また、地上で見られる南アルプスの岩石についても解説しています。

誌面はホームページ (<http://sciencewindow.jst.go.jp>) から無料で読むこともできます。興味のある方は、ぜひ一度ご覧下さい。



地質講座「活断層調査からわかったこと」参加（飯田市美術博物館）

7月4日（土）、飯田市美術博物館にて開催された地質講座「活断層調査からわかったこと」に参加しました。講師は産業技術総合研究所の近藤久雄さんで、国内外の断層を調査されている方です。断層を調査することにより、過去の地震の規模や年代がわかるそうです。

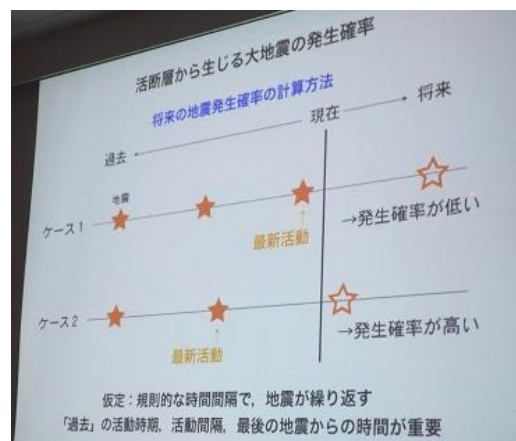
地震は断層がずれ動くことによって生じます。しかし、120年ほど前までは、断層とは地震でずれたのか、ずれたから地震が起きたのか、論争となっていました。1891年の濃尾地震で地表に断層が現れたことから、世界で初めて断層のずれによって生じることが明らかとなったそうです。

地震は繰り返し起こるということで、地震の予測についてのお話がありました。地震の長期予測では、地震発生を確率で表します。トレンチ（溝）を掘り、地層と断層の関係を調査することで、その断層が活動した年代がわかります。地震が規則的に起きていると仮定すると、過去に活動した年代から、次にいつ発生するかという確率を求めることができるそうです。

長野県周辺の地震予測については、伊那谷断層帯の古地震調査から、国の地震本部は5000～6000年に1回、マグニチュード8級の巨大地震が起きると予測しています。ただし、1回り小さなマグニチュード7級の頻度や、断層の南東部については未解明など、課題も残っています。

糸魚川ー静岡構造線断層帯は全体で約160kmの長さがあり、最大でマグニチュード8級の地震を引き起こす可能性があります。昨年11月に発生した長野県北部地震の震源断層である神城断層は、糸魚川ー静岡構造線断層帯の一部です。

今回の講座は活断層や地震の仕組みなど基礎的な説明から始まり、具体的な断層の調査結果など、順を追って解説されていたため、わかりやすい内容でした。また、糸魚川ー静岡構造線や伊那谷断層帯などの身近な話題もあり、改めて断層と地震の関係について考えを深めていきたいと思いました。（榊原）



地震発生確率の計算方法（講座スライドより）

— 講演会のお知らせ —

① 「南アルプスは高くなっているか」

② 「GPSでわかってきたこと」

- 日時：2015年11月21日（土）13：30～15：30
- 場所：大鹿村交流センター
- 講師：^{さぎや たけし}鷺谷 威さん（名古屋大学教授）

聴講無料・申込不要